【第三種郵便物認可】

ぐんまアイデア人 開発の舞台裏

ユニティーネットワーク「ぴぴっと君」

■メール使い保護者に連絡 ■学童保育への導入に注力

ソフトウエア開発のユニティーネットワーク（東京・新宿、掛川信弘社長）は、携帯電話のメール機能を使って教職員が生徒の保護者に連絡事項を伝えられるサービス「ぴぴっと君」を始めた。電話による緊急連絡網を補完する手段として、関東の公立小学校で徐々に導入されているという。群馬県高崎市の開発センターを拠点に活動する掛川社長に、サービス開発の経緯などについて聞いた。

学童保育施設で無料モニターを募集しサービスの拡販につなげたいと語る掛川社長

▼メモ　利用料金は児童数300人以下の場合年間で2万5200円。1101人以上の場合は年5万6700円など。利用当初3カ月間は料金を無料にしている。

――サービスの利用方法について教えてください。

「保護者が指定のメールアドレスに本文に何も書かない『空メール』を送ると、ウェブサイトのURLを記載したメールを自動で返信します。保護者はそのウェブサイトに接続し、自身や子供の名前など必要な情報を入力すれば利用の手続きは完了です」

「連絡事項のメール送信は、学校の教職員など管理者が実施します。配信するグループは学校の保護者全員かもしくは学年ごとになります。学級ごとに配信できるようにすることも考えましたが、システムが複雑になるため、あえて単純な機能だけにし料金を抑えました」

――開発のきっかけは。

「あるPTAの会長から現在学校では個人情報保護法の兼ね合いもあり、緊急連絡網の紙にクラス全員の電話番号を載せるようなことはしていないと聞きました。連絡をして来る人と自分が連絡をする人の二人分だけ番号を教えるといったやり方をしているため、情報の伝達がスムーズにいかない時もあるそうです。そうしたことからサービス開発のヒントを得ました」

――どんな連絡をする時に使用されるのですか。

「これまでの事例でいえば、雨で運動会を中止するとか台風で雨が非常に強いので下校時間を遅らせるといったことで使用していました。利用頻度は月一回から二回程度が平均です」

――導入の実績は。

「現在公立の小学校など九施設に導入しています。下校後の児童を一時的に預かる学童保育施設でも導入されており、施設内での活動の様子を写真付きのメールで配信しています」

――携帯電話を持っていない保護者への対応は。

「他の保護者から自宅に電話してもらうなど、情報が入るようなネットワークをつくってもらうことで対応しているようです。携帯を持っていても電波が届かずメールを受信できていない場合もあるので、緊急性の高い情報は電話による連絡網も併用している学校もあります」

――今後の展開は。

「メールを閲覧したことを確認する『開封確認』の機能やアンケート機能などの追加を検討しています。機能の拡充と併せ、今後はメールの利用頻度が高い学童保育への導入を中心に営業をかけていきたいと考えています」

☎ 前橋 027-223-3111